



藤原 和範 議員

質問

たたらをテーマにした着地型旅行商品化を

町長

交流人口の拡大、誘客促進を図る



鉄穴流しの跡地に造られた榎田（蔵屋地内）

質問 観光庁の支援事

業「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」に、本町の「鉄づくりが生んだ千年の原風景を旅する」が選ばれた。

たたらをテーマに榎田や食を結びつけた、一層の着地型旅行商品化への事業概要と計画は、

町長 観光地としての

受け入れ基盤の整備やニーズ調査、旅行商品の開発等に取り組み。具体的には、着地型観光商品に向けたツアーの実施でたたら製鉄関連の体験プログラムと食を盛り込んだ旅行商品につなぐ。また、食のプロジェ

クトとして、奥出雲町

ならではのメニュー開発を行い、食による誘客促進の手段として活用したい。

防災対策について

これらを実施することにより、本町の観光振興へとつなげ、交流人口の拡大、誘客促進を図る。

質問 大規模災害発生

時のボランティアの受け入れ体制は整備されているのか。

総務課長 災害ボランティアの活動が円滑かつ効果的に実施できるようボランティアセンターを設け、活動環境を整えるよう防災計画に定めている。

質問 周辺自治体との

応援協定は、総務課長 合併前において、横田町と日南町、仁多町と高野町間における消防相互応援計画並びに協定、また

尼崎市と横田町間にお

ける災害時相互応援協定が締結されている。

質問 消防団員の確保と現状は、

町長 定員数615名に対し、団員数559名と56名不足する現状。機能別消防団員制度を導入し、現在7名の団員確保を図るとともに、計画的に消防車両の更新、消防施設の整備拡充を進めている。

質問 消防団員の減少

による消防力の低下により、災害・防災活動が十分できないことも懸念されるが、年々人口減少が進む中、長期的視点に立った消防体制の見直しが必要では、

町長 町としても総合戦略の中で、「団員の減少に伴う昼間火災への対応、車両や設備更新への対応など、伝統あるこれまでの活動を踏まえながら、時代に即したあり方を検討す

る。」と定めている。

今後あるべき消防体制について、消防組織の改編を含め、消防団と検討していきたい。

仁多米振興について

質問 来年の生産調整廃止以降の作付面積確保への取り組みは、

町長 県は、作付け意向調査結果をもとに生産数量の目安を提示する。町は地域農業再生協議会で方針決定することとなるが、意向調査の結果を優先した、作付け面積確保の対応を検討したい。

質問 今後の仁多米のブランド推進は、

町長 米・食味分析鑑定コンクールでの金賞の獲得と、消費者ニーズに対応した食の安全・安心、品質維持・向上による、信頼される仁多米を目指す。